

せたな町 農業塾

Setana agricultural cram school



開講初年度となる今年度は
10名の若手農業者が参加しました

基幹産業である農業の将来を担う優れた担い手を育成するため、若手農業者を対象に生産技術や経営管理手法の講習、先進地視察などを実施する「せたな町農業塾」が平成25年8月に開講しました。

「せたな町農業塾」の初年度となる今年度は、概ね30歳未満の農業後継者で、せたな町の代表的な経営類型である「水稲に畑作や園芸などを組み合わせている経営体」を対象に受講者を呼びかけました。その結果、20歳から30歳の若者10名が参加することとなり、平成25年8月20日に役場で開講式と第1回農業塾を開催しました。

第1回農業塾では、開講式で塾生がそれぞれの経営内容と自己紹介をした後、本町の農業の現状と課題や、今後の大きな課題であるTPP交渉の現状について、北海道からの派遣職員である町産業振興課の下堀参事から講義を受けました。

10月23日に農業センターで開催した第2回農業塾では、同参事から水田農業の現状と課題、優良事例について、檜山農業普及センター北部支所の佐々木係長から、町の稲作の現状と通常の移植栽培の基本事項、近年の取り組みであ



開講式・第1回農業塾に出席した塾生の皆さん



8月20日に開催された開講式・第1回農業塾



研修2 山形県鶴岡市にある生産者が運営する直売所「産直あぐり」を視察。代表の澤川さんから経緯や運営形態などの説明を受けました。直売所に隣接してレストランも運営。



研修1 JA真室川町（山形県）では新しい飼料用米の形態として注目されている稲のソフトグレイン（生粳）サイレージの取り組みについて研修。自給率などについての質問も。

農業塾先進地視察



●塾生を代表して
江口慎也さんに話を伺いました。

農業塾に参加して良かったです。特に先進地研修では、当町には無い飼料米や産直などの取り組みが参考になりました。なかでも、山形県の農家やJA職員の意欲がすごく、僕たちも負けていけないと感じました。何よりも、仲間同士のつながりが強まったことが良かったです。こうした機会があればまた参加したいです。



第2回農業塾では町の稲作の現状などについて学びました

る直播栽培における長所・課題・注意事項などの講義を受けました。

国は米政策を見直し、来年度から飼料米への転換を促す支援の方針であることから、本町でも飼料米の生産が一気に増える可能性があるため、第3回農業塾では、11月6日から11月9日の日程で、自然条件や農業形態が類似している山形県へ向かい先進地の視察を行いました。

視察先では、飼料米の粗米を家畜用飼料に加工・販売し、耕畜連携を実現している「JA真室川町」のほか、販売額が3億7千万円に上る鶴岡市の農産物直売所「産直あぐり」、地場産米のブランド化に取り組んでいる寒河江市の「JAさがえ西村山」、産直と農作業の受託を行っている山形市の「農事組合法人やまがたファーム」の4か所を視察しました。どの視察先も地域が一体となった積極的な取り組みに、塾生も大きな刺激を受け、見聞も広がり今後の農業経営に役立つ研修ができました。

このほか、同世代の若者が4日間行動を共にし、互いに今後の農業経営を語り合うなど、塾生同士、横の繋がりができたことも大きな成果でありました。

第4回農業塾は、1月20日に先進地視察研修の報告会を開催し、高橋町長や農協役員などに対して視察研修で得たことを報告した後、今後の営農への思いなどを語り合い、懇談しました。



第4回農業塾は視察研修の報告会として開催

農業塾は、来年度以降も継続して行っていく予定です。若手農業者の積極的な参加をお待ちしております。

【お問合せ先】農業センター

0137・85・1276



研修4 農作業の受託から人気の「おおさとひろびろ直売所」を運営する農事組合法人やまがたファームを訪問し、代表の丹野さんなどから説明を受けました。塾生の希望により、共同運営している米の乾燥施設も見学。



研修3 JAさがえ西村山では、魚沼産コシヒカリ超えを目指す銘柄米「厳選つや姫」生産の取り組みについて説明を受けました。向こうからライバル視されている「ゆめぴりか」に対する逆質問も。